

【追儺】 ついな

追儺は年越しの宮中年中行事です。儺追[なやらひ]・鬼追[おにやらひ]ともいいます。「やらひ」とは追放のことです。冬の季語に属します。

晦日の夜、宮中にて矛と盾を手にした方相氏(ほうさうし)が諸侯と共に声を合わせて、舎人[とねり]の扮した疫気・災害の象徴としての悪鬼を宮中より追い出す行事です。

中国では古く『周礼』にあり、わが国には奈良時代に伝来したようです。

- ・是の年、天下の諸国に疫疾ありて、百姓多く死ぬ。始めて土牛を作りて大きに儺[おにやらひ]す。
『続日本紀』慶雲三年十二月より

この行事は以降次第に社寺民間に伝わったようですが、これがご存知節分の豆まきの原形といわれています。『蜻蛉日記』に「人は童、大人ともいはず、儺やらふ 儺やらふ と騒ぎのゝしるを、」とありますので当時の掛声の様が想像できます。

- ・公事ども繁く、春の急ぎにとり重ねて催し行はるゝさまぞ、いみじきや。追儺より四方拝に続くこそ面白けれ。
『徒然草』第十九段より

この一節は兼好法師が季節の移り変わる様子が「あはれ」であるとして、年間の季節感のある行事を挙げた中の大晦日から一月に移る部分です。

当時、追儺は亥の刻(午後十時)より始まり、年明けの寅の刻(午前四時)に四方拝が行われました。四方拝とは天皇が四方に向き拝礼し国の安泰を祈る正月最初の宮中の儀式です。

現在、宮中でどのような年中行事がなされているのか私は詳しく知りません。

旧年の鬼を祓い、新年を清々しく迎えたいと願うのは今も昔も変わらぬ万民の願いでしょう。今年も祓うべき悪鬼が多く出没した一年だったようです。平和な世などありえないとは思いたくないものです。